

報告者氏名: 佐伯 郁代

所属: 岩見沢市立明成中学校

記録日: 2016年2月23日

キーワード: 「(聞く・話す)コミュニケーションを支える」「学習指導・家庭学習(宿題)」

### 【対象児の情報】

・学年 中学校 1 年

・障害名 場面緘黙(不安状態)、読み書きの困難、詳細の見取りの苦手さ

・障害と困難の内容

- ① 他者とのコミュニケーションに困難を抱える
- ② 指示の聞き取り、理解に困難を抱える
- ③ 板書等の詳細の見取りに困難を抱える
- ④ 学習方法の未定着

### 【活動目的】

・当初のねらい

#### 1 「コミュニケーション」を課題としての取り組み

- ① 他者とのコミュニケーションに困難に対して

自分の思いを表出させる手立てを多様に持つことで表現する喜びを味わわせることができる

#### 2 学習意欲の向上と学力の補充を試み

- ② 一斉指示の聞き取り、理解に困難に対して

繰り返し、確認することで、理解をうながすことができる

- ③ 板書等の詳細の見取りに困難に対して

文字を大きく、はっきりと映し出すことで、詳細の見取りを支えていくことができる

- ④ 学習方法の未定着を補うために

学習を楽しみながらできる経験をすることで学習意欲の向上につなげることができる

多様な学習方法を知ること、自分に合った学び方を模索し学習意欲の向上を図ることができる

・実施期間 平成 27 年 4 月～平成 28 年 2 月

・実施者 佐伯 郁代

・実施者と対象児の関係 担任

## 【活動内容と対象児の変化】

### ・対象児の事前の状況

#### 1 「コミュニケーション」を課題としての取り組み

##### ① 他者とのコミュニケーションに困難に関して・・・不安状態

- ・机間巡視中の声かけにも飛び上るほど驚く、授業での発表場面は沈黙してしまう。→極度の不安状態
- ・意見交流場面では自分の順番になるとうつむき他者の意見に同調するのが精いっぱい
- ・意思表示→自分の考え、意見を表現する方法を思いつかない

#### 2 学習意欲の向上と学力の補充を試み

##### ② 指示の聞き取り、理解に困難を抱える

- ・一斉支持だけでは、自分が何をすべきかわからず、周囲の状況を見て模倣する  
(集団の中で一斉指示を聞き、作業や学習課題に取り組むことが出来ない)

##### ③ 板書等の詳細の見取りに困難を抱える・細かい作業の苦手さ

- ・文字のバランスや構成の見取り、板書事項の見取りに困難があり、正確な書字に問題がある
- ・文字を書く事への抵抗感があり、ノートを他者に見せることを嫌う。ノート提出は、消極的である。
- ・ノートテイクの課題→文字を見取ることに時間がかかり、書字に時間がかかる。そのため書くことを嫌うので、授業時間内に板書事項を書き写すことができなくもそのままにしてしまう。また、文字の書き写しの間違いも多いが、指摘されることを嫌うため、見られないように隠したり、雑な記録となることがある。
- ・図形が移動・反転したらわからなくなる
- ・定規のメモリを読み取れない→正確な長さで線を引けない

##### ④ 学習方法の未定着

- ・家庭学習習慣の未定着→学習方法がわからない。何を勉強すべきかわからない
- ・学習への見通しが持てない→何のために、何を、どのように勉強していくのか見通せない
- ・定着に向けた取り組みが継続できない→授業に参加することが学習であって、理解・定着については気にしていない

### ・活動の具体的内容

#### 1 「コミュニケーション」を課題としての取り組み



##### ① 他者とのコミュニケーションを支える

スピーチや文字以外の自分の思いを表出させる手立てを講じたいと考えた。思いはたくさんあるが、文字や言葉にすることは、対象生徒にとって、とても高いハードルとなっていた。いろんな人と会話を楽しめるようになってほしいとの思いから、言語以外の手軽に表現できるものはないかと考えた末、思いついたコミュニケーション手段がスタンプであった。

【LINE】のスタンプは、感情や伝えたいことが、絵や動作で伝えてくれる。対象生徒は年齢的にも SNS に興味があり、うってつけの素材であった。今まで、伝わらない・伝えられない気持ちを相手に伝えたい、伝わる喜びを味わわせたい、そんな体験を積み重ねさせたい、体験したいという生徒と支援者の思いが一致し、楽しんでトークを行えた。セキュリティ等の問題や『LINE』使用の校内ルールの確立がなされない中でしたので、教室内でのスタンプ遊びと、担任とのコミュニケーションゲームとして使用し、伝わることを実感させることに目的を絞り込んでみた。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦



【生徒の使用意図】

①なんやて ②うえ～ん ③うふふ ④ええやん ④すてき ⑥うんうんはいはい おいしい ⑦ふい

並行して、NHK for school の【コミ・トレ】を視聴し、コミュニケーションの基礎を学んだ。



2 学習意欲の向上と学力の補充を試み

① 指示の聞き取り、理解を支える

デジタルサウンドレコーダーアプリ【Animo Recorder】を使用し、指示の聞き洩らしを減らすための試みをした。録音ファイルを再生するときにも、ノイズキャンセリング機能や、音の高さを変えずに再生速度を0.5倍速～3倍速に調節できるアプリを使用した。



【Animo Recorder】

生徒自身が操作し、自分の聞きやすい速度で、再生し指示内容把握を目指した。

② 板書等の詳細の看取りを支える・細かい作業の苦手さを支える

詳細の見取りに困難を抱えていることが、「(見えにくいから) めんどくさい」「(言われなくても間違っているのは) わかってる」という投げやりな表現となって表現されていた。【大きく明るく】を使用することで詳細の見取りを支え、隠すように書いていたノートへの記録に自信をつけたいと考えた。



【大きく明るく】

学校行事や体育等の実技の再現・反復練習をするために動画撮影をした。どちらの取り組みも、導入当初に「他の子と違うことをしないでほしい」という対象生徒の思いから、協力学級内では、特別なとき(行事やニーズのある時)だけの使用とした。



\* 使用アプリ

【完全無音ビデオカメラ】

③ 学習方法の未定着を支える

社会の学習補充としてNHK for school の【歴史にドキリ】を視聴し、歌で学習内容の確認をしたり、年号を覚えるポイントを確認したりした。



【NHK for school】

同じく社会では、【怪盗ねこぴー】日本のれきしでも、アニメーションで学習内容の確認を行った。

学習内容理解と定着を図るために【中学歴史 徹底ワーク I】を使用した。一問一答式で問題が出されるが、記述式のため反復練習には使用できなかった。



【中学歴史徹底ワークI】

【新ネットレ学習教室】は、答えを選択できるので意欲的に取り組んだ。

家庭学習やテスト対策向けに【自分でつくる問題集】は、自分でカメラで読み込んだテキストにマーカーをつけ、要点をまとめていくアプリでの学習で、楽しく取り組んでいた。



【新ネットレ学習教室】



【自分でつくる問題集】

## 【その他の学習アプリ】



常用漢字筆順辞典



カメラ辞書



「英語はイヤッ!」



学習時間の記録



NEW HORIZON ドリル



パワーポイント



ワード



まっしゅ



あげあげ日記



こころく



ペタッとカレンダー

## ・対象児の事後の変化

研究開始時、長期間、様々な状況において不安状態にあり何に対しても自信もなく・意欲もない状態にあったが、困難を支えるための方法を持つことで、徐々に自信と意欲を取り戻してきている。

あらゆる場面での介入さえ拒んでいたが、介入・支援を受けることで「(協力学級の) みんなのように行える自分」に気づき、支援を受け入れるようになったことが、一番の変化と言える。

### 1 「コミュニケーション」を課題としての取り組み

自立活動の時間を中心に取り組んできたが、当初は、「どう思う」という問いかけに「別に・・・」という答えしか得ることができなかった。

支援者側の「しゃべってほしい」「書いてほしい」という思いをあえて飲み込み、スタンプ・絵文字・顔文字などでの非言語的アプローチをしてみたところ、スムーズに受け入れてくれた。自分の感情・思いに近いものを『選ぶ』という作業は、対象生徒にとって、表現というハードルを低くしてくれたと感じる。表現の方法を手に入れたことに伴い、表情が豊かになってきている。やはり、自分を表現することは、心地よく、自信にもつながっていると感じる。タブレットを使用しないコミュニケーション授業とは明らかに意欲が違っていると感じる。タブレットを使用しないということは、文字か音声でコミュニケーションを求められることに負担を感じるからだと考察している。

### 2 学習意欲の向上と学力の補充を試みる

学習に関しても、常に自信がなく消極的であった。しかし、選択肢があると、答えることができる。間違っても、楽しそうに学習を続けることが出来た。間違えることよりも、答えられた喜びが大きいのだと感じた。



また、あいまいな指示・指導に対してもタブレット・PCの効果は感じられた。たとえば、「英文は、単語と単語の間を一文字分のスペースを空ける」という表現は、アナログでは個人の感覚的な差が生じる。そういったあいまいな感覚はわかりにくいようだが、デジタルにすることでスペースキーでみんなが同じようにスペースをとることができる。人と違うことに不安を感じる対象生徒に対しては、デジタルは重要なツールになったと感じた。

対象生徒の内面的変化としてとらえているのは、自分の苦手なこと・困っていることを伝えようとし

始めたことである。困っていることを伝えることで、何らかの支援の手立てを講じてもらえることが実感出来たのかもしれない。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ○主観的気づき

#### 1 「コミュニケーション」を課題としての取り組み

- ・「黙る」≠「思いがない」

表現したい感情・思い・考えは生徒の中にたくさん詰まっていた。表出させるための手立ては、非言語的手段であればハードルが低くなる。子どもが表現に用いる手段を多様に提示できる・受けと止める大人側の準備が必要である。

#### 2 学習意欲の向上と学力の補充を試み

- ・「答えられない」≠「わからない」

選択肢があると、スムーズに答えられた。答えを選び正解できた自分に自信を持つことは、その後の学びを継続する意欲にもつながる。

### ○気づきに関するエビデンス

#### 1 「コミュニケーション」を課題としての取り組み

- ・絵文字、顔文字、スタンプから自分を表現しようとしていたが、個別の授業場面では12月に入り、タブレットを使わずに談笑していたり、授業中には敬語を使い話すことも出来るようになってきている。コミュニケーションツールとしてのタブレットは、次の段階に進めたい。

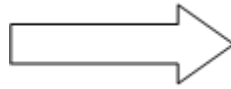
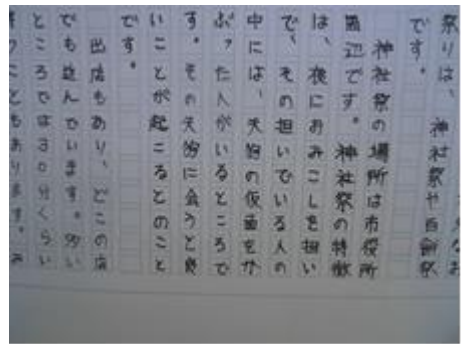
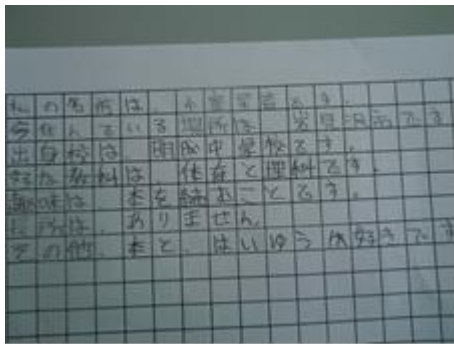
#### 2 学習意欲の向上と学力の補充を試み

##### ① 指示の聞き取り、理解に困難を抱える

- ・指示、質問を繰り返し聞ける環境にすることで、緊張感が和らいだ。質問を聞き漏らさずにすむという安心感からくるものだと思う。

##### ② 板書等の詳細の見取りに困難を抱える

- ・視覚情報収集には意欲的に取り組むことができた。  
ア) 文字の書きを支える（ノートテイクにも応用）



【導入前の文字 4月】

【9月 壁新聞での転写文字と文】  
PCで原稿作成→転写

字形が整わない。  
読む→読むの書き間違い

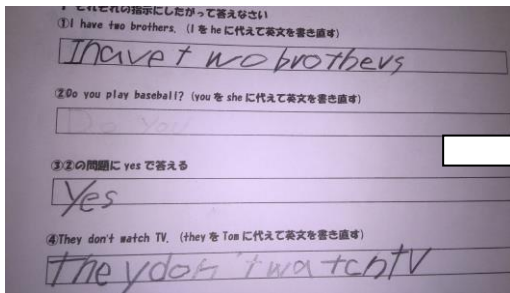
文字の大きさ、形が整いつつある。

詳細の見取りに困難を抱えていたため、漢字書き取りに苦手意識を持っていた。

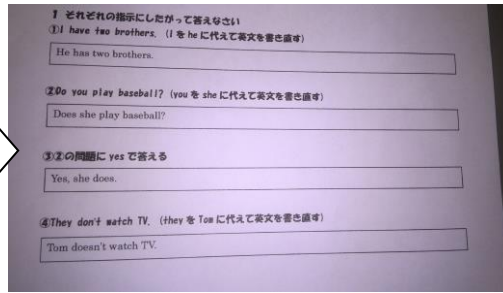
黒板に書かれた文字には、指導者側の癖があるので、詳細の見取りに難しい場面があるが、拡大することで補うことが出来た。拡大で足りない時には、辞書機能を使うこともあった。

### イ) 英文の書き

- ・「POWER POINT」を用いて教材を作成する時には、アナログでは定着しなかった英文を書く作業がスムーズに行えた。
- ・英文を視写する際、区切りが曖昧になりがちだったため、後から見返しても何を書いているのかわからない状態になりがちであった。
- ・入力という方法をとったことで、単語間のスペースを意識できるようになってきた。
- ・スペースが明確になったことで、単語を塊として捉えて文法を意識して学習していくことができるようになった。



手書きでの解答



模範解答をPCで作成したプリント

### ③学習方法の未定着

- ・12月実施のアンケートでは、タブレットやPCを使用する授業が楽しいと感じている。
- ・詳細は、聞き取りによるが、「選択肢があること」が楽しい・わかる実感につながっている。
- ・選択肢を持たせることで、『答えられる』実感を持たせたようだ。そのことにより、学習意欲が向上し、集中力に継続にも効果があった。

### ○支援者側の変化について

様々な不安要因からコミュニケーションや学習に困難を抱えていた対象生徒に変化が現れたのは、支援者側の考え方の変化も大きいと感じる。

魔法のプロジェクト参加前は、「みんなと同じように」というゴールに向けて、「みんなと同じ方法で」コミ

コミュニケーションや学習定着を図ろうとしていたことに気づいた。または、障害種により「こういう指導の手立てがあっているのではないか」「この学年相応の学力だろう」というように指導方法・内容を選択していたと振り返る。

プロジェクト参加後は、人それぞれに困り感は違うのだから、その支援も多様にあってよいと考えるようになった。

また、今までは指導者側の授業の道具であったPC・タブレットを子どもが授業内容を理解するために、自分のために自分で操作するというのもこのプロジェクトにかかわらなければ、未だ気づいていないことだと思う。

## 【今後の見通し】

### 1. コミュニケーションの課題について

- ・タブレットの使用時のリテラシー教育を行いつつ、自己表現の補助のための道具として使用していくことを考えている。
- ・コミュニケーション不安を払拭するために、教師側の受け入れ体制を整えていきたいと思う。

### 2. 学習意欲向上と学力補充の取り組みについて

- ・学習意欲の向上と学力の補充は、継続してタブレットを使用し、タブレットを自由に使える環境整備と理解を一層図ることが必要である。
- ・タブレットを家庭学習に活用することで、学力の補充をしていきたいと考える。

### 3. その他

#### 【校内リテラシーの策定の必要性。】

バイトーク（SNS）を使用しているコミュニケーション、連絡などに対して

- ・職員の共通理解→タブレット使用は、特別扱いではなく、支援として有効な手立てである間認識を持ってもらいたい。

#### ・その他エピソード(画像などを含めて)



カジュアルな場面では、談笑する姿も

学校でも、「・・・しなければならぬ」と限定されなければ、楽しいコミュニケーションが生まれてるんだね。